

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	観光型ホテル（商品企画担当）	・客室稼働率は、2月は前年が71.9%で今年は78%前後の見込みである。3月は前年の稼働率が77%に対し80%前後の見込みである。
	やや良くなる	衣料品専門店（経営者）	・1月の前半のセール時より、後半の定価販売の方が売上の前年比が良く、単価が少しずつ上がっている。これから段々良くなる。
		家電量販店（従業員）	・1月は、歳末の需要の反動で売上そのものが落ち込みがちであるが、今後は各企業の決算期にも入り、春の人事異動や地上デジタル放送の開始もあり、冬季オリンピック、ワールドカップ等国际行事も目白押しなので、薄型テレビなどデジタル家電の好調さがこのまま続く。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・相変わらずお値打ち感のある食べ放題、タイムサービスの半額料理にオーダーが集中しているが、平日動きの悪かった地元客の来店頻度が上がってきている。
		観光型ホテル（営業担当） ゴルフ場（経営者）	・予約状況は、まずまず良好である。 ・客単価の上昇が予測されている。
	変わらない	百貨店（担当者）	・春物衣料の上がり状況により大きく左右される。1月末現在では入荷状況が芳しくなく、衣料は引き続き鈍化傾向を維持すると推測されるが、2月のパレンタインにおいては食品を中心に好調を維持する。
		スーパー（経営者）	・今月については旧正月のずれもあり、単純には比較できないが、状況からみて今後、客単価の上昇あるいは客の購買意欲の向上等が無い限り、当分はこのような状況が続く。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・日本全体の寒波、大雪による航空便の欠航、空港までの移動手段の不通などによって沖縄観光の数字に影響を受けおそれがある。また、従来の観光客関連以外の部署の需要が落ち込みが大きくなっている。周辺の大型商業施設に地元客が流れていくのが顕著にうかがえる。
		高級レストラン（営業担当）	・入域観光客数は過去最高値を記録したが、観光食事施設は昨年同期を維持するのがやっとという状況である。背景として、品質の高い居酒屋の大幅な出店や、観光客の6割がリピーターということ、そして団体客の急減などが考えられる。しかし、入域観光客は着実に増加しているため、頭打ちをしない限りは当社も急激な落ち込みは無い。
		観光名所（職員）	・全国における沖縄への好感度に支えられて、沖縄観光は順調に推移している。4月に入ると各地で海開きが行われ、沖縄は観光の季節を迎える。
コンビニ（エリア担当）		・卒業や入学等新旧入替えの時期が迫ると、財布のひもは更に固くなり、より低価格路線が強まる。よって、例年通り利益率低下の傾向が続く。また、オリンピック需要が見込まれるビデオテープ等は、コンビニでは取扱量が減少する傾向にあり、また家電量販店の営業時間拡大もあり、波及効果はあまり期待できない。	
やや悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・毎年著しい伸びを示していたたばこの伸びが鈍化していることや、毎月のように同業態、異業態の出店が続いていることを考えるとマーケットはやや厳しくならざるを得ない。	
悪くなる	商店街（代表者）	・中心商店街に関しては、通常の買回り品の店は段々閉店に追い込まれ、新規オープン観光土産品店等が目抜き通りや市場の中に乱立しているため、頭打ち状態である。一部には売れる店はあるが、全体的には来店客数が大幅に減少している可能性がある。リピーター相手の売上も減少しており、地元一般消費者は郊外の大型店に流れているため今後は苦しい。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（総務担当）	・閉店した量販店の跡地利用も決まり、コアテナントの動きも活発化している。地域も活性化して物量も増加する。
	変わらない	輸送業（営業担当） 通信業（営業担当）	・現時点では、変わる要素は見当たらない。 ・提携している通信キャリアの吸収合併に伴い、これまで以上の引き合いが期待される反面、料金面でこれまで以上の値引き要求が出てきているため、現段階では分からない。
		不動産業（支店長）	・景気が良くなる材料が見つからない。

	やや悪くなる	食料品生産業（財務総務担当）	・当社製品の原料である肉類の価格が上昇している。また、輸入商品の値上げの影響も続いており、先行きも期待できない。
		不動産業（従業員）	・マンションの耐震性偽装問題やアスベスト問題など、特に古い建物に関して客の関心が高く、これから売買のみならず賃貸でも難しくなる。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当） 学校〔専門学校〕（就職担当）	・全体の求人数などが依然として好調に推移しており期待が持てる。 ・これまで安定した採用活動を行っていた企業から、人材不足との声が多く寄せられており、求人件数、求人数ともに増加する兆候がみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・景気の波乱要因をおおむね吸収できる。求人数の増加と相まって勢いが出てきている。
	変わらない	求人情報誌製作会社（営業担当） 職業安定所（職員）	・就職者数の伸び悩みと、IT企業の事件等による社会情勢の変化で企業の動向が慎重になっていくおそれがある。 ・12月は前年同月と比較すると紹介件数は2.7%、月間有効求職者は5.0%、就職件数は6.5%増加し、新規求職申込件数は3.9%、県外就職者は39.9%も減少している。離職者の実態は、事業主都合が30.4%、自己都合47.0%である。主婦層を中心としたパート求職者は横ばいであり、県外希望者は大幅に減少、雇用保険受給者は増加している。12月にゆいレール駅近くにホテルがオープンし、多数の雇用が見込まれるなどの改善の動きは見られるが、求職求人とも増加傾向で推移していき、雇用情勢は依然厳しい状況が続く。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-